

平成 30 度 事業計画 及び 収支予算

I 平成 30 年度事業計画

九州の中核都市福岡に拠点を置く九州交響楽団は、福岡県から公益法人の認定を受け、国、福岡県、福岡市、北九州市、地方公共団体、産業界、市民からの助成を得て、創立 65 周年を迎える平成 30 年度も福岡県を中心に公益目的事業として演奏活動を行い音楽文化の普及、向上発展に努める。

なお、公益目的事業は、九州交響楽団が自ら企画・主催する<主催公演>と鑑賞団体、企業、学校などからの依頼を受け出演する<依頼演奏会>に分けられる。

そのほか、収益事業として、コンサート会場等で CD 等の販売を行う。

(1) 主催公演

主催公演は、九響自ら企画し、市民に幅広く告知・販売し、公演を行い、クラシック音楽の魅力をも市民に伝える公演である。

福岡市内では、以下の 23 公演を実施する。

シリーズものの三本柱として

- ① <定期演奏会> (9 公演)
- ② <天神でクラシック> (4 公演)
- ③ <名曲・午後のオーケストラ> (4 公演)

その他の主催公演として

- ④ <三大交響曲のタベ> (1 公演)
- ⑤ <九響ファミリー・コンサート> (1 公演)・・・平成 30 年度新企画
- ⑥ <親と子のためのコンサート> (1 公演)
- ⑦ <ニューイヤー・コンサート> (1 公演)
- ⑧ <舞台芸術感動体験事業コンサート(アクロスー万人コンサート)> (2 公演)

① <定期演奏会>

<定期演奏会>は九州での歴史あるプロ・オーケストラとして、九響の持つ高い音楽性・実力をクラシック音楽ファンに提供する<芸術型>シリーズと位置付ける。これまで九州の地で演奏されることがなかった作品やアジアの芸術家の紹介にも努める。(9 公演)

●特徴としては

- (i) 九響の音楽監督に就任して 6 年目のシーズンとなる小泉音楽監督がブルックナーとマーラーの大作を採り上げる。ブルックナーは「交響曲第 5 番」(4 月)を、九響創立 65 周年記念として、マーラーの「交響曲第 8 番<千人の交響曲>」(9 月)をいずれも九響定期公演で初めて採り上げる。

- (ii) 周年記念としては、バーンスタイン〈生誕 100 年〉、ドビュッシー〈没後 100 年〉の特別プログラム（6 月）を企画する一方、〈非公式な演奏から 100 年〉としてホルストの組曲「惑星」（7 月）を採り上げる。また、ロッシーニの〈没後 150 年〉として歌劇序曲の 3 名作品に加え、マスカーニの「カヴァレリア・ルスティカーナ」（演奏会形式）を人気のバッティストーニの指揮にて（11 月）、他に〈明治維新 150 年〉を記念して 150 年前に初演されたワーグナーの楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲（12 月）をお届けする。
- (iii) アジアに近い九響として、5 月にシンガポール生まれの指揮者カーチュン・ウォンを招聘し、3 年前に発見され話題となったストラヴィンスキーの幻の作品「葬送の歌」等（5 月）を披露する。

② <天神でクラシック>

<天神でクラシック>は、指揮者等のトークを交え、クラシック音楽により親しみを持ってもらい普及させることを目的にした<啓蒙型>シリーズと位置付ける。（4 公演）

●特徴としては

- (i) 指揮者沼尻竜典が、昨年に三菱 UFJ 信託音楽賞を受賞した自作の「竹取物語」（抜粋）を本人の指揮で披露するとともに、メンデルスゾーン「真夏の夜の夢」など夏に相応しい作品をお届けする。（7 月）
- (ii) 九響桂冠指揮者秋山和慶が 5 年ぶりに九響の指揮台に立ち、鉄道ファンで知られる秋山自身が〈鉄道にちなんだ作品〉を指揮する。（10 月）

③ <名曲・午後のオーケストラ>

平成 27 年度より開催している<名曲・午後のオーケストラ>は、子供からお年寄りまで来場しやすい午後 2 時に開演し、誰もが耳にしたことのある名曲を集め、多くの市民に楽しんでいただくことを目的とした<市民大衆型>シリーズと位置付ける。（4 公演）

●特徴としては

- (i) 指揮者には小泉音楽監督が 2 回、6 月にチャイコフスキーのピアノ協奏曲第 1 番、ブラームス交響曲第 1 番を、翌年 2 月にメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲、チャイコフスキー交響曲第 5 番などの名曲を披露する。また、女性指揮者として脚光を浴びている田中祐子が九響主催公演に初登場し「ウエスト・サイド・ストーリー」からシンフォニックダンス等の指揮を執る。（9 月）
- (ii) ソリストには、6 月に人気と実力を兼ね備えたピアニスト小山実稚恵、9 月に豊かな音楽性に定評のあるシャルル・リシャール＝アムラン、翌 2 月には、世界的に活躍するヴァイオリン奏者堀米ゆず子などを迎える。

④ <三大交響曲の夕べ>

<三大交響曲の夕べ>は、8 月に小中高校生を含む幅広い市民が、極め付けの交響曲 3 曲「新世界・未完成・運命」を 1 日にして楽しめる企画としている。（1 公演）

2回目の今年は、九響名誉客演指揮者である小林研一郎が指揮を執り、夏の風物詩として市民への定着を図っていく。

⑤ <九響ファミリー・コンサート>

学校が夏休みとなる8月に、クラシック音楽だけではないオーケストラの魅力をお届けすることで、未来の音楽ファンとなる子供たちとその家族が一緒になって音楽の持つ素晴らしさや喜びを体験してもらう。作曲・編曲者として活躍する宮川彬良を招き、クラシックやポップスの名曲を宮川流にアレンジした楽しいコンサートとする。(1公演)

⑥ <親と子のためのコンサート>

平成25年度から開催している<親と子のためのコンサート>は、未来のクラシック音楽ファンである子供たちに音楽の喜びを体験してもらう。(1公演)

- (i) 平成30年度もテレビでお馴染み青島広志の指揮と楽しいお話で、クラシック音楽から童謡、アニメソングまで盛り込み、また聴衆と一緒に歌ったりする。
- (ii) 子供が直接楽器に触れることにより、より音楽が身近に感じられる様、開演前に<楽器ふれあいコーナー>を設け、その中で楽団員も協力し子供たちを指導する。
- (iii) 平成30年度も「ウエスト」から冠協賛の支援を受けることが出来た。

⑦ <ニューイヤー・コンサート>

<ニューイヤー・コンサート>は、新年にふさわしく家族でクラシック音楽を楽しめる<市民大衆型>コンサートと位置付ける。(1公演)

- (i) 現田茂夫の指揮とお話しに加え、平成30年度はプリマドンナの佐藤しのぶを迎える。
- (ii) 内容は、ウィнна・ワルツ、オペラ・アリアを中心に楽しいプログラムを企画する。
- (iii) アクロス福岡公演では九響合唱団が出演する。

⑧ <舞台芸術感動体験事業コンサート(アクロス一万人コンサート)>

<舞台芸術感動体験事業コンサート>は、アクロス福岡が青少年を対象として企画している公演であるが、平成30年度もアクロスと協力し、共催事業として実施する。(2公演)

北九州市では、以下の4公演を実施する。

北九州市での公演は、福岡県北東部のクラシック音楽普及を目的とした<地方普及型>コンサートと位置付け4公演実施する。

- ① <北九州定期演奏会> (2公演)
- ② <第九の夕べ> (1公演)
- ③ <ニューイヤー・コンサート> (1公演)

① <北九州定期演奏会>

プログラムは基本的に福岡での公演と同じであるが、5月は札幌交響楽団指揮者の佐藤俊太郎、9月には第一線で活躍中の女性指揮者 田中祐子が初登場する。ソリ

ストでは、9月にショパンコンクール入賞のシャルル・リシャール＝アムランが登場する。

② <第九の夕べ>

指揮者には鹿児島出身で広島交響楽団音楽総監督の下野竜也が登場し、合唱には地元の誇る「北九州市民フロイデコール」が登場する。

③ <ニューイヤー・コンサート>

お馴染み現田茂夫が指揮と巧みなお話を展開する。例年ソプラノ歌手がゲストで登場するが、平成30年度はプリマドンナ佐藤しのぶが登場し、地元北九州のコーラスとも共演する予定である。

ウィンナ・ワルツ、オペラ・アリアを中心に楽しいプログラムを企画する。

(2) 依頼公演

依頼公演は、<主催公演>以外、鑑賞団体、企業、学校などから公演の依頼を受け出演するコンサートである。

平成30年度の大きな依頼公演では、平成17年度から始まった「福岡県市町村振興協会」主催の中学生を対象とした公演を引き続き平成30年度も52公演実施する。

新規事業として、文化庁の「文化芸術による子供の育成事業―巡回公演事業―」が採択されたことにより、7月、11月の2回に分けて計9公演を四国・阪神エリアで実施する。さらに北九州において「松本清張記念館20周年」1公演、鹿児島においてソリストにヴァイオリン奏者の諏訪内晶子を迎え1公演を実施する。平成27年度から始まった「日生劇場公演」は2公演実施する。今後も30年度内において、依頼がある場合市民のニーズに応えながら公演を実施するつもりである。

なお、熊本震災から2年目にあたる4月16日には「熊本地震復興コンサート」に出演する。

一方、オーケストラ業務に支障のない範囲で《室内楽》演奏を実施する。この《室内楽》も<依頼公演>に含まれる。

前述、<主催公演>、<依頼公演>は、公益法人の公益目的事業区分において[1]定期演奏会、[2]巡回演奏会、[3]特別演奏会、[4]移動音楽教室、[5]依頼演奏会の5種類に分類している。

公益法人における公益目的事業区分は以下のとおり。

[1] 定期演奏会 (11公演：福岡市9公演、北九州市2公演)

福岡市での

<定期演奏会> (9公演)

北九州市での

<定期演奏会> (2公演)

[2] 巡回演奏会 (1 1 公演 : 福岡市 9 公演、北九州市 2 公演)

福岡市での

<天神でクラシック> (4 公演)

<名曲・午後のオーケストラ> (4 公演)

<ニューイヤー・コンサート> (1 公演)

北九州市での

<第九の夕べ> (1 公演)

<ニューイヤー・コンサート> (1 公演)

[3] 特別演奏会 (5 公演 : 福岡市 5 公演)

福岡市での

<三大交響曲の夕べ> (1 公演)

<九響ファミリー・コンサート> (1 公演)

<親と子のためのコンサート> (1 公演)

<アクロス一万人コンサート> (2 公演)

[4] 移動音楽教室 (2 公演)

情操教育を目的とした公演であり、依頼を受け実施する<依頼公演>の一つであるが、
 ≪移動音楽教室≫として分類している。

[5] 依頼演奏会 (1 4 5 公演 : オーケストラ公演 : 1 0 5 公演、室内楽演奏 : 4 0 公演)

<参考>公演数一覧

	平成 30 年度計画	平成 29 年度計画	回数増減
定期演奏会	1 1 回	1 1 回	増減なし
巡回演奏会	1 1 回	1 1 回	増減なし
特別演奏会	5 回	4 回	1 回増
移動音楽教室	2 回	2 回	増減なし
依頼演奏会	1 0 5 回	7 6 回	2 9 回増※
合計	1 3 4 回	1 0 4 回	3 0 回増

※ 中学生公演 23 回増、文化庁巡回公演 9 回増

	平成 30 年度計画	平成 29 年度計画	回数増減
室内楽	4 0 回	4 0 回	増減なし